



2022年度 活動報告

樹木・環境 ネットワーク協会

もくじ

P4. トピックス

P11. 事業別報告

P22. 会員

P23. 役員・職員

P25. 財務報告

2022年度の前半は、コロナ禍の影響も残り、特に企業による野外の活動は動きが抑えられていましたが、後半になるとコロナ前の状況に戻ってきたという実感があります。ボランティア活動や、仲間同士の活動が活発化しています。

また、もう一つの動きとして、特に企業の森づくりへの関心が高くなったように感じます。脱炭素への動きも後押ししているのかもしれませんが。一方で、国際情勢の不安定要素や、物価の高騰といった、活動に影響を与えると思われる要因も現れています。

コロナ禍を経験した今、このような中にあっても、やるべきことは何か、持続的な社会づくりに必要なことは何かを追求することは変わりありません。

2022年度を振り返りながら、次へのステップとしたいと考えております。

NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会
理事長 清水 善和

ミッション

人と自然が調和する 持続可能な社会をめざして

人の暮らしと自然の豊かさを保つことを両立し「持続可能な社会」を実現するためには、より多くの人々が自然とふれあい、自然について学び、自然の美しさや重要性を実感することが必要です。私たちはそんな思いを共有する人々に支えられて、活動を展開してきました。人々の思いを集め、森や里山、そして社会へ届けるために集う場所であり続けたい。樹木・環境ネットワーク協会の「聚（しゅう、『集』の旧字体）」という愛称には、そんな思いが込められています。



活動目的

森づくりや里山再生、人材育成、普及啓発活動などを実践しながら、「人と自然が調和する持続可能な社会」を目指す。





- TOPICS **1** フィールド活動再開・活発化
- TOPICS **2** 行政との協働
- TOPICS **3** 和歌山フィールドの活動の広がり
- TOPICS **4** 森林保全への関心の高まり
- TOPICS **5** グリーンセイバー・ナビ発行

事業実績

	2021年度	2022年度
活動回数	27回	40回
参加者数	687名	1,174名
指導者数	85名	95名

※GS、会員、一般・外部講師含む

※環境コミュニケーション事業、グリーンセイバー事業に該当する活動





TOPICS 1 フィールド活動再開・活発化

多摩動物公園の活動（TAMAZO）では、コロナの影響やナラ枯れの影響で2年余り、活動が休止していましたが、ようやく再開できました。ナラ枯れで伐採されたことを機会に、新しい森づくりのプランニングを行いました。そして、新しいリーダー体制を構築する準備をしました。

また、町田・三輪里山フィールドにおける里山林塾では、リーダー層が代わり、新しい里山の活用を視点に置いた内容と体制を開始しました。午後に部活動という形で様々な活動を取り込みました。

各フィールドにおいても参加者が増えたり、イベントも開催されるなど、コロナ禍以前の活動に戻ってきています。



TOPICS 2 行政との協働事業

●海の森公園ボランティア

海の森公園での育樹等を行う公園ボランティア。東京都の管理する海の森公園は令和7年度末に公園としてオープンする予定です。公園ボランティアにより、これまでに行われた植樹エリアの樹林地管理、育樹活動を行っています。本年は、新規登録ボランティアの研修の企画実施から、ボランティア活動のコーディネートを行っていました。また22年3月には、プレオープンイベントが開催され、アウトドアクッキングやガイドツアーなどのプログラムも実施しました。

●まちだみどり活用ネットワーク（仮）の意見交換会への参加

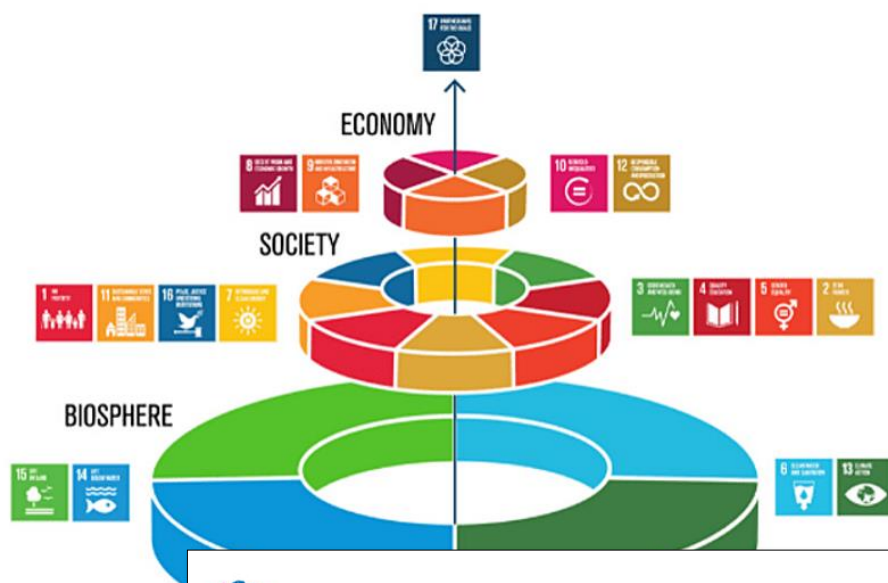
町田市では市内の緑地を有効に活動しながら、みどりを通じた活動を活性化し、緑が豊かになることによる町田市の魅力向上を目的としたプラットフォームの構築のため、市内の団体との意見交換を行ってきました。当会も参画しており、7月には協働イベントも実施しました。今後も引き続き連携を継続していきます。



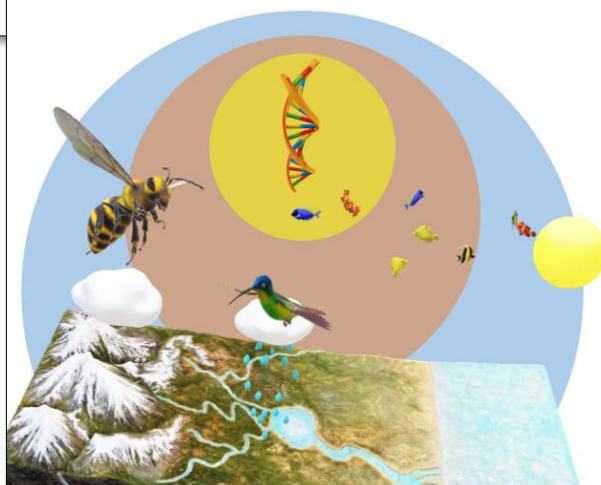
TOPICS 3 和歌山フィールドの活動の広がり

耕作放棄地の有効活用、里山の魅力・和歌山の魅力を発見・体験できるフィールドを目指し、和歌山フィールドとして新たな活動を手探りで始めたのが2021年度でした。それから1年を経た2022年度は、切り拓いた耕作放棄地に植えたブルーベリー・ラズベリー・サルナシの初収穫や、ヒノキの間伐材から生えたナメコの収穫など、活動が少しずつ形になってきた年となりました。さらに、日本国内の野生の桜として 100 年ぶりの新種と確認された「クマノザクラ」の観察会や、紀州備長炭の製造現場見学など、和歌山の魅力を学ぶ活動も盛り込み始めた一年でもありました。

2023年度は、2022年度に形になりはじめた活動をしっかりと進めるとともに、ログハウスの浴室整備や、作業中の休憩や簡単なセミナー等ができる小屋づくりも平行して実施し、興味をもった方々が参加しやすい環境整備も行っていく予定です。



生物多様性の3レベル



生態系・環境

種

遺伝子

TOPICS 4 森林保全への関心の高まり

コロナ禍による自粛の影響も残っていましたが、社会全体として森林への関心の高まりを感じた年でもありました。森づくりに関する問合せや、ボランティア活動への参加希望の問合せが多くなってきました。

SDGsと気候変動対策の社会課題に、世間が注目してきたことと、生物多様性保全への対策も課題が大きくなってきたという背景が、森林保全への関心を高めてきたのだと考えています。

コロナ禍で活動がまだできない分、寄付等による活動へのご支援が増えてきたのは、そうしたことも影響しているのではないかと考えています。



「グリーンセイバー ナビ」新登場！



TOPICS 5 グリーンセイバー・ナビの完成

グリーンセイバー・ナビのテキストが完成しました。グリーンセイバー・ナビは、「木の葉はなぜ紅葉するの?」「外来種は悪いやつ?」といった、自然と環境に関する30の疑問に読み物形式で答えることで、自然って面白いな、もっと詳しく知りたいなと思ってもらうことを目的としています。

グリーンセイバー検定を受けるにはハードルが高いと思っている人や、企業や大学など環境問題について知っておきたい、という人にも読んでもらいたいと考え制作されました。

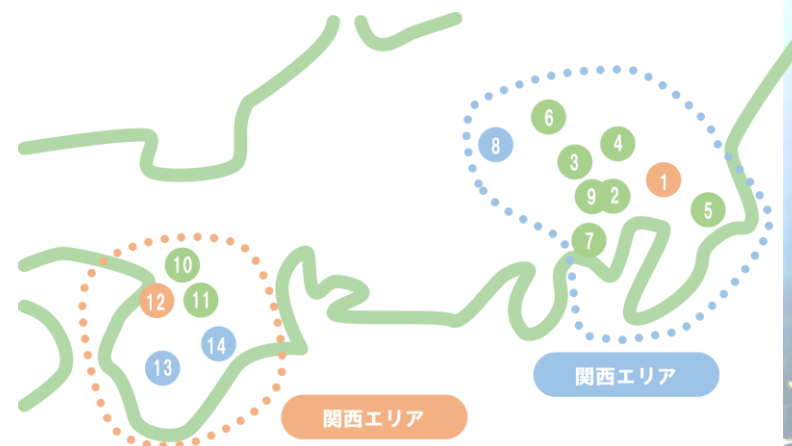
一通り読んで問題に答えた方に贈る、認定証も発行します。



フィールド事業



14箇所のフィールドにおいて、保全活動を推進してまいりました。



- 里山の保全・再生・活用
- 都市の緑を守り育てる
- 宿泊型ワーキング

関東エリア

- 1.上野動物園 緑化ボランティア
- 2.町田・三輪里山フィールド
- 3.多摩動物公園雑木林 TAMAZO
- 4.武蔵野の森から学ぼう
- 5.千葉おぐらの森
- 6.嵐山ふれあいの森
- 7.二宮蜜柑倶楽部
- 8.八ヶ岳ワーキング
- 9.本町田宿ふるさとの森

関西エリア

- 10.交野森フィールド
- 11.庵山ふれあいの森
- 12.レッツ久宝探検隊・自然学習ゾーン
- 13.御杖村フォールド
- 14.和歌山ワーキング



コロナ禍を経て、徐々に活動も活発になってきました。通常活動では、ほぼこれまで通りとなり、イベントも実施したフィールドや新しい体制で実施体制をつくったフィールドなど、それぞれのフィールドで変化がありました。

●交野・森フィールドで体験活動の実施
スミセイ情報システム、ローソン等、企業との連携活動を行いました。※詳細は次ページ掲載

●三輪里山では里山林塾が部活動をスタート
「里山林塾」修了生を中心に、三輪の里山をベースにしたさまざまな活動を展開。耕作放棄地の開墾、ハチミツづくり、ピザ窯活用など、里山のめぐみを活かした取り組みが盛んになっています。

●TAMAZO～ナラ枯れというピンチをチャンスに！新しい目標を掲げて再スタート！
コロナとナラ枯れにより活動休止している中、里山林塾修了生を新しいリーダーに、ゾーニングにより新たな目標を作る1年になりました。

2022年度活動回数（14フィールド）	147回
参加者	1356人

グリーンセイバー事業

白鳥
+GS
グリーンセイバー
人を育てる

グリーンセイバー資格検定

コロナ禍が続く中、ネイチャー・カルチャーの受検者数が前年度より若干減少しました。会場は、東京、大阪、岡山、仙台に加えて札幌を設定しましたが、札幌は申込者がおらず、成立しませんでした。
新しく誕生したグリーンセイバーたちが、フィールド活動、グリーンセイバー企画へと積極的に活動を展開しています。

グリーンセイバーナビ

グリーンセイバー検定のすそ野を広げようとして取り組んできた、入門編としての「グリーンセイバーナビ」のテキストが完成しました。企業、団体はじめ、多くの人たちにとって、まずは自然との関わりを持つことに関心を持ってもらうための一歩にと、販売を開始しました。

グリーンセイバー企画

コロナによる中止はなくなり、これまでのイベントが実施できるようになりました。新年度からは、グリーンセイバーゼミが開始され、観察会に関わる人材育成を始めました。

●これからはじめる自然観察

自然に興味はあって、もっと知るために一歩踏み出したいという方向けの気楽に参加できる観察会。

2回実施 参加者41名

●自然と親しむ講座

自然に関する知識やノウハウをもう少し深く学びたい、ステップアップしたい方向けの講座的プログラム。

3回実施 参加者22名

●子どもわくわくプロジェクト

青少年を対象とした自然の不思議や魅力を五感で楽しむ自然体験プログラム。

4回実施 参加者110名

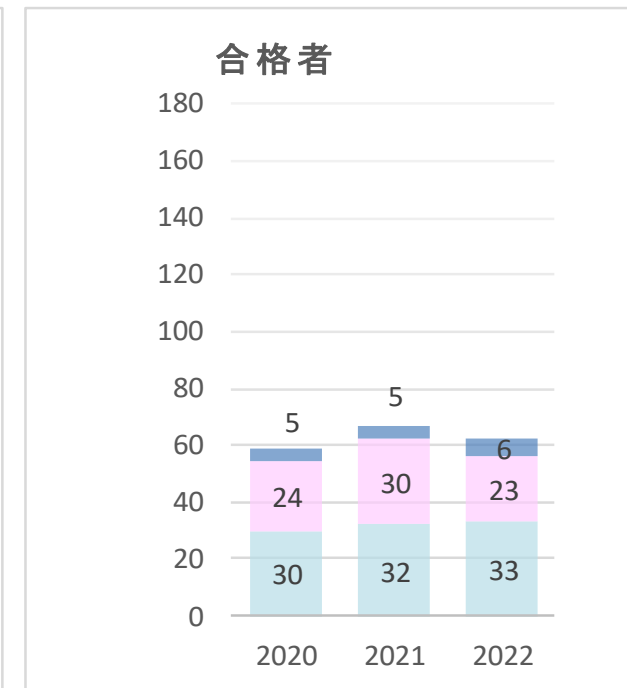
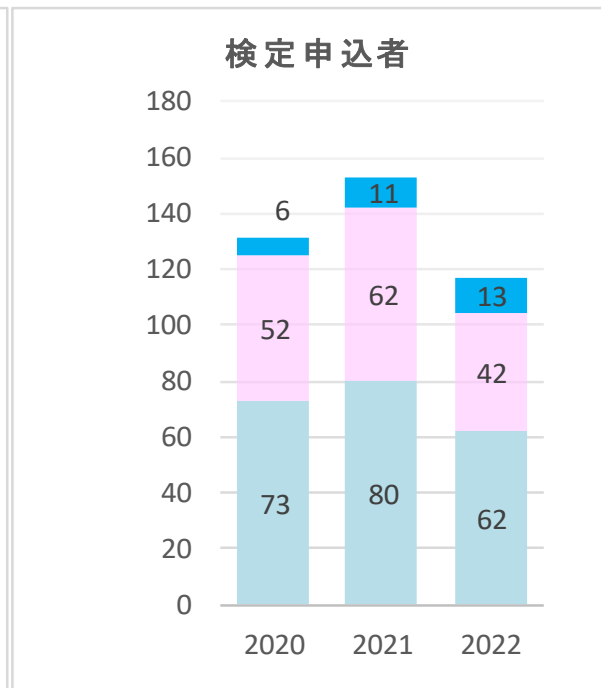
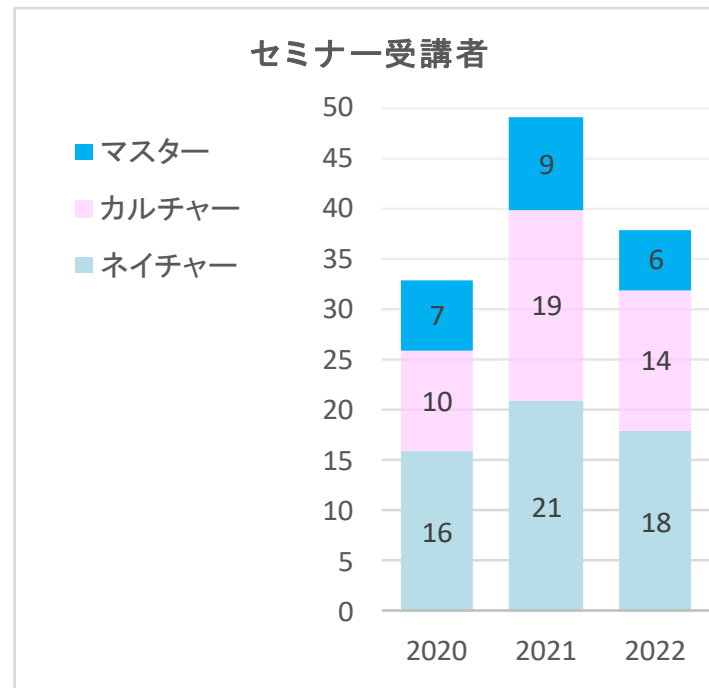
●GS祭り

グリーンセイバーの活動をPRするイベント。2022年に、GSの発案により、町田・三輪フィールドで実施。

1回実施 参加者15名（ススキ・ポプリづくり）

GS研修・勉強会

グリーンセイバーによる自主的な学習の企画が実施されました。



環境 コミュニケーション事業

取
組
み
森と人を繋ぐ

コロナ禍の影響が残っていましたが、活動も活発になってきています。

【フィールドでの受入れ】	11件
【環境イベントの協働実施等】	7件
【森づくり関連】	1件
【研修や授業の実施】	3件
【所有緑地の管理・活用】	0件
【オンライン研修等】	2件
【環境ツールの制作、企画展示】	0件

参加者 約976名（累計）
※不特定多数はカウントしていない

実施にあたり関わった指導者（累計）
GS 86名 / 会員9名 / 一般・外部講師0名

生物多様性セミナーの実施

オンラインによる生物多様性セミナーを開催。各回80名以上の社員が参加し、持続可能な社会のために森づくり・保全活動の重要性を学ぶセミナーとなりました。

協働した環境教育の実施

・KDDI（小学校3校 134名）
ICT教育と身近な自然を発見し学ぶ学習をKDDIと協働して実施しました。

・レガス（3回 計71名）
新宿未来創造財団の運営するレガスプログラム。夏休みの学習の機会として、3日間の自然学習プログラムを行いました。セミを題材に昆虫について学ぶ講座として実施し、多くの子供たちが都会の自然を発見し学びました。

・桜川中学校（95名 2回）
中学校の総合学習の時間で、里山とボランティアの体験を行う授業を行いました。事前授業の学校でのワークショップと嵐山ふれあいの森での森林保全作業を行いました。

森づくり協働活動

コロナによる自粛も解除されてきた中で法人による活動も活発になってきました。傾向として、気候変動を切り口に社会貢献をしたいという企業が増えています。

- ・SORA（三輪 40名）
- ・アストラゼネカ&メディセオ（三輪 2回 計48名）
- ・グリー（三輪 17名）
- ・スミセイ情報システム（交野 33名）
- ・ローソン（三輪、交野 各1回 計28名+交野人数）



他団体との協働イベント

・森林と市民を結ぶ全国の集い
全国の森づくりボランティアの情報交流を兼ねたシンポジウムです。実行委員として参画し、分科会等の運営を行いました。全国から参加できるようにオンラインでの開催となりました。今回のセミナーでは“森林コモンズ”がテーマで、さまざまな角度からの話題提供がありました。

・環境教育関東ミーティング
毎年行っている環境教育関東ミーティングは、関東周辺の環境教育を実践している団体や個人の交流・情報交換の場です。千葉に場所を移して実施し、今回はコロナ禍以降はじめての宿泊型でのミーティングとなりました。

学生インターンの受入れ

SOMPO環境財団、DotJPによる学生インターンの受入れを行っています。ブログをはじめ様々な活動に参加しています。



行政との 協働・委託事業

取
組
森と人を繋ぐ

海の森公園（東京都）

●海の森公園ボランティア活動

22年度は海の森公園ボランティアのコーディネート事業を受託することができました。海の森公園は当会で長年関わってきた森づくりの場です。本年は新しくボランティアを登録され、72名という大所帯でのスタートとなりました。研修の企画運営を行い、養成研修2回、育樹研修3回、安全研修4回、インタープリテーション研修3回実施し、本格的なボランティア活動がスタートしました。

●海の森公園プレオープンイベント

海の森公園は令和7年3月にグランドオープンを目指しています。オープン控え、多くの方に海の森を知ってもらう機会をつくろうと、3月の土日祝日にプレオープンイベントが開催されました。当会では、イベント全体の統括とガイドツアーやアウトドアクッキングのプログラム提供を行い、多くの方に参加していただくことができました。

まちだみどり活用ネットワーク（町田市）

これは、町田市にて計画しているみどり空間の活用を促進するプラットフォームづくりを行おうという取り組みです。里山、農地、公園など、さまざまなみどりが町田市内にはたくさんあり、それらを活用した活動を活性化させ、各団体が抱える課題解決につなげたり、活動を通じて豊かな緑を残していくことにより、町田市の魅力向上につなげることを目指しています。

これまで、町田市内のさまざまな緑に関わる活動をしている団体が集まり、プラットフォームの実現に向けた意見交換を行ってきました。当協会は、約2年前から参画しています。

埼玉県産材を使った木製品の制作（越谷市）

越谷市では“森林環境譲与税”を活用した、埼玉県産材の有効活用に取り組んでいます。当協会は、SDGsピンバッジ、木製盾の制作を受託し、嵐山ふれあいの森で産出された杉材を使い制作することで、この取組を後押ししました。



媒体を使い分けて情報発信

これまでと同じように、ホームページ、聚レター、パンフレット、メルマガ、各種SNS等で情報発信を継続。団体としての基本情報と参加者募集や活動実施報告などはリアルタイムで更新できるHPやSNSで、活動の意義や新たな方向性、これからの活動を考える上でのより深い学びなどは、じっくり読んでいただけるよう聚レターで、といったように、内容によって媒体を使い分け、トータルで当協会の活動について理解していただけるよう、多角的な情報発信を目指しました。

GS検定、GSナビ、里山林塾など、新たな動きの発信を強化

聚レターでは、23年度からCBT方式を利用して全国の会場で受検可能になったネイチャー・カルチャー検定や、グリーンセイバーナビの発売、里山林塾やGS祭り、GS企画といったGSの新たな取り組みなど、コロナ禍を乗り越えて変化しつつある活動内容について、「なんのために」「どのように」がしっかり伝わるような記事を心掛けました。引き続きアマゾンで電子版を発売。活動についてより深く知ることができる、アーカイブ資料として活用していただけたらと考えています。

パートナーズ・ボイス・プロジェクトを継続

2020年にスタートした「パートナーズ・ボイス・プロジェクト」を継続。全国の会員やGSの方々と交流しながら、そこから生まれた新しいプロジェクトの進捗状況を共有することで、新たな展開やネットワークの構築につながり始めています。聚レターに掲載したこれまでの報告をすべてHPにもアップしているので、ここまでのプロセスを共有することが可能です。

広報運営



聚レター電子版

メールマガジンをリニューアル

担当者の変更を機に23年度からメールマガジンをリニューアルすることになり、どのように運用するか検討を重ねました。2週間に1度という発行頻度はキープしながら、事務局スタッフが持ち回りで担当することで、少しずつ個性を出して行ければと考えています。また、メルマガで連載してきた清水理事長のコラム「2つのガラパゴス」は、初回からまとめて読める専用サイトに移設し、メルマガでは更新情報を発信することにしました。

ご寄付の増加

コロナ禍の影響による経営状況のひっ迫を訴え、ご支援をお願いした結果、個人、企業、財団等の皆さまから多くのご寄付をいただきました。これまで交流のあった方々だけでなく、HP等での情報発信をきっかけに、ご寄付につながる例も増加。活動を継続するうえでたいへん心強く、励まされる思いです。この場をお借りして、あらためてお礼申し上げます。

リニューアルしたメルマガ

==== ♪ ===== ♪ === ♪ ===== ♪ ===
 聚メールマガジン No.352
 樹木・環境ネットワーク協会ニュース
 2023年4月14日号
 聚ホームページ⇒ <https://www.shu.or.jp>

今号より聚メルマガは少しずつリニューアルを図ります。2週間に1回程度という発行間隔は変わりませんが、毎号、事務局スタッフが持ち回りで編集します。今週の担当は大西です。

<担当よりひとこと>自然の営みや植物や樹木に憧れて、事務仕事やフィールド活動など、まだまだ不慣れなことも多いと思います。どうぞよろしくお願い致します。

メルマガ受信アドレスの変更・配信の解除は、東京事務局
 ＊このメールはBCCでお送りしています。転送は歓迎します。

～目次～

【1】お知らせ 聚または協力団体からのご案内
 ★再開！TAMAZOの活動について
 ★申し込み開始日決定2023年度グリーンセイバー検定について
 ★清水理事長コラム「2つのガラパゴス」の専用サイトを開設

【2】聚イベント情報
 ★5月13日(土) スゲ講座～観察入門(狭山公園)
 ★5月28日(日) 分かれやすい樹木の見分け方・伝え方(日)

【3】グリーンセイバー・会員からの情報
 「満開のツツジと花々 赤城自然園」(5/14)のご案内

【4】聚フィールド情報 各フィールドについてのご紹介

清水理事長のコラム







**GS登録 50%
(228名)**

正会員 (計435名・団体)

個人会員	369名
家族会員	39名
団体会員	9団体
法人会員	18社

準会員 (計19名)

賛助会員	13名
ユース会員	6名

入会 24名 退会25名

法人会員

株式会社アテナ
株式会社エスパシオ
NECネットエスアイ株式会社
株式会社SBI新生銀行
株式会社昭栄
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
大和不動産鑑定株式会社
株式会社高橋総本店
東京ガス株式会社
東京ガス不動産株式会社
東京シティライオンズクラブ

コロナ禍の影響もあり、法人会員の退会もありましたが、会員数としては大きく変化はありませんでした。
ユース会員が徐々に増えており、今後も若い世代の会員やグリーンセイバーが増えることも期待できます。活動が多様化していく中で、関わる方々も多様化しています。

凸版印刷株式会社
株式会社ナカムラ・コーポレーション
株式会社美交工業
株式会社ひむか造園土木
株式会社ユーエム工業
株式会社ローソン
株式会社KSK

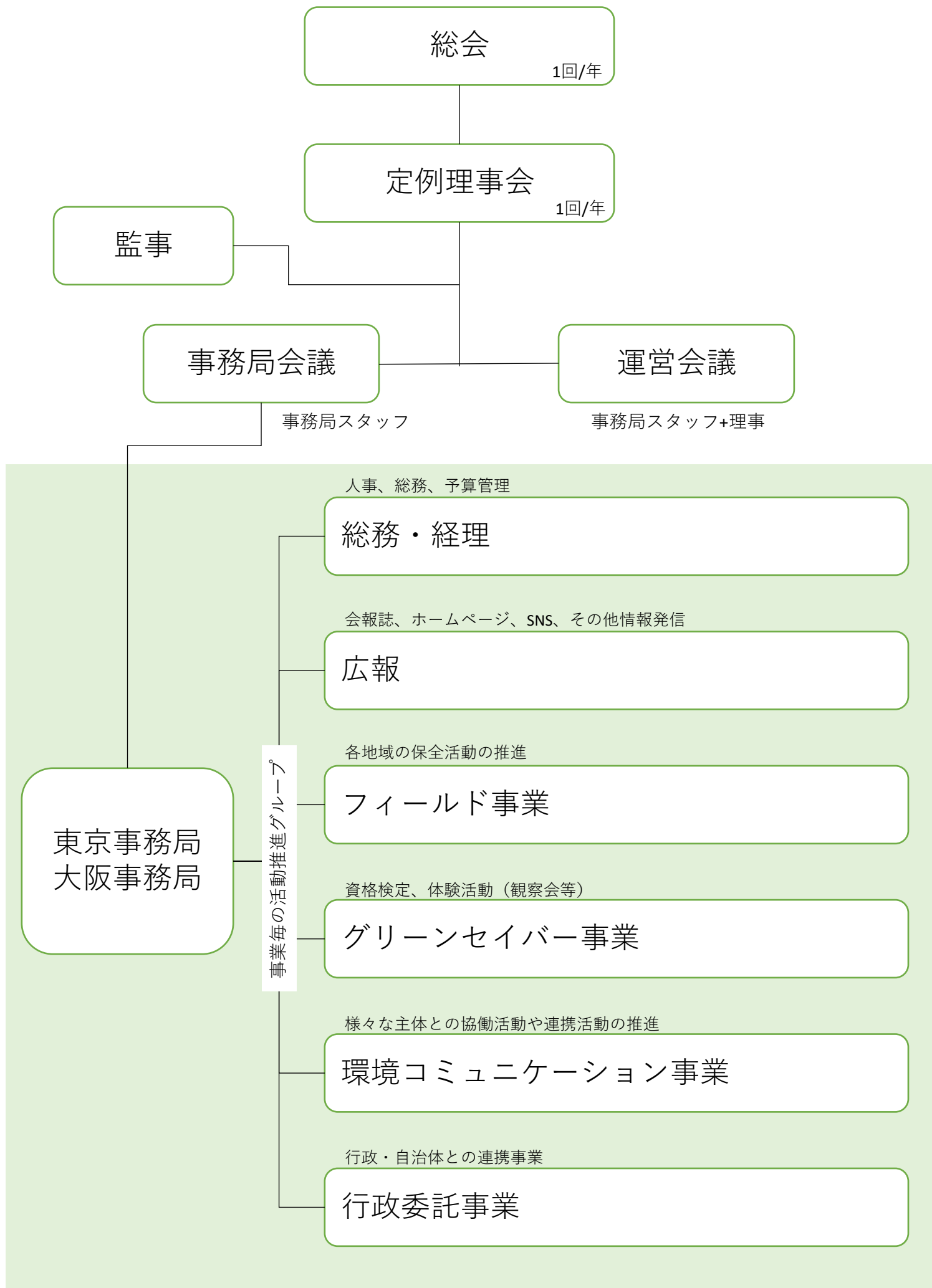
【顧問】 山本 光二	樹医
【顧問】 澁澤 寿一	前理事長
【理事長】 清水 善和	駒澤大学総合教育研究部教授
【専務理事】 佐藤（中西） 由美子	グリーンセイバー・マスター
【理事】 小久保 広宣	関西聚スタッフ
【理事】 小笠原 幹治	株式会社アテナ 顧問
【理事】 岡本 俊彦	グリーンセイバー・マスター
【理事】 片山 雅男	神戸教育短期大学児童教育学科元教授
【理事】 川端 自人	グリーンセイバー・マスター
【理事】 小林 健人	NPOフュージョン長池 理事
【理事】 小和田 祐子	東京ガス株式会社 サステナビリティ推進部長
【理事】 後藤 洋一	事務局長
【理事】 塚本 秀貴	グリーンセイバー・マスター
【理事】 広瀬 攻	三輪里山フィールドリーダー
【監事】 三尾 隆志	公認会計士
【監事】 吉田 寛	公認会計士 公会計研究所 代表

【事務局スタッフ】

専務理事	中西 由美子
理事・事務局長	後藤 洋一
スタッフ（東京）	石崎 庸子
スタッフ（東京）	加藤 武
スタッフ（東京）	陣野 益実
スタッフ（大阪）	山本 睦子



NPO法人樹木・環境ネットワーク協会 運営・組織図



2022年度 財務報告

※この成果報告書は吉田寛氏の「公会計における財務諸表利用者としての納税者」
『(国府台経済研究第13巻第1号)』に掲載された表示形式を利用しています。

収支・成果報告

発生費用の部: 活動のためにかかった費用		非営利活動		2022年度合計
		2021年度	2022年度	
事業費	総務・管理	¥4,266,758	¥3,761,070	
	広報	¥3,190,879	¥3,166,193	
	グリーンセイバー事業	¥2,809,110	¥2,756,893	
	フィールド活動事業	¥3,569,960	¥3,010,286	
	環境コミュニケーション事業	¥ 4,847,449	¥ 2,695,178	
	行政委託事業	¥ 230,343	¥7,006,074	
税金	法人税・住民税・事業税	¥150,000	¥150,000	
棚卸高	期首商品棚卸高			
	期末商品棚卸高			
発生費用合計		¥19,064,499	¥22,545,694	¥22,545,694

費用負担の部: その費用は以下のように負担しました。		非営利活動		2022年度合計
		2021年度	2022年度	
受取会費	会費負担分	¥3,532,000	¥3,074,500	
受取寄付金		¥5,774,890	¥10,700,390	
受取助成金		¥ 771,000	¥ 47,000	
事業費収入	グリーンセイバー事業	¥2,611,892	¥2,187,246	
	フィールド活動事業	¥2,051,462	¥2,477,684	
	環境コミュニケーション事業	¥4,688,434	¥3,881,225	
	行政委託事業	¥ 235,950	¥ 7,289,150	
事業外収入	雑収益・受取利息	¥1,200,032	¥53	
費用負担額合計		¥20,865,660	¥29,657,248	¥29,657,248
当期正味財産増減額		¥1,801,161	¥7,111,554	¥7,111,554

貸借対照表

(単位 : 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金	156,461	未払金	2,090,256
普通預金	5,046,761	前受金	1,830,000
郵便振替口座	1,049,502	預り金	46,255
未収金	9,751,935	仮受金	274,887
前払金	0	流動負債合計	4,241,398
前払費用	162,800		
流動資産合計	16,167,459	2 固定負債	0
2 固定資産		負債合計	4,241,398
有形固定資産			
車両・運搬具	453,600	III 正味財産の部	
減価償却累計額	△453,599	前期繰越正味財産	5,243,708
有形固定資産合計	1	当期正味財産増減額	7,111,554
無形固定資産		正味財産合計	12,355,262
商標権	74,000		
敷金	355,200		
無形固定資産合計	429,201		
固定資産計	429,201		
資産の部合計	16,596,660	負債・正味財産の部合計	16,596,660

寄付・助成金

寄付 助成金

SDGsの達成に向け、気候変動対策や生物多様性保全はますます重要になっています。社会的な関心も大きくなってきています。活動が継続的かつ円滑に進むよう、ご寄付は大切に活用させていただきます。

ご支援いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

2022年度の寄付および助成金等の実績は以下のとおり

●寄付

個人の寄付

52件

合計414,000円

法人・団体の寄付

- ・ KDDI
- ・ NECソリューションイノベータ
- ・ (株) Salad (GREEN PARKマラソン)

- ・ (株) ジャックス
- ・ JAL財団
- ・ 大和不動産鑑定 (株)
- 他3件

9件

合計8,657,672円

寄付プログラム

- ・ 朝日ライフセットマネジメント「あすのはね」
- ・ KDDI「キボウのカケハシ」
- ・ SoftBank「つながる募金」
- ・ ボーダレスジャパン「ハチドリ電力」
- ・ JAMMIN

5件

合計1,628,718円

●助成金

- ・ 埼玉県みどりの活動支援金（嵐山）

1件

合計47,000円

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会の
2022年度決算について監査の結果、事業報告は事業の内容
を適切に反映していると認めます。

2023年4月8日

特定非営利活動法人

樹木・環境ネットワーク協会

監事 三 尾 隆 志 

三 尾 隆 志

監事 吉 田 寛 

吉 田 寛



団体概要

【組織】

団体正式名称 特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会
設立 1995年9月19日
ホームページ <https://www.shu.or.jp/>

○東京事務局

[住所] 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6
日本分譲住宅会館ビル8階南
[Tel] 03-5244-5447 [Fax] 03-5244-5448
[Mail] info@shu.or.jp

○大阪事務局

[住所] 〒576-0033 大阪府交野市私市5丁目17番11号
[Tel] 072-893-1716 [Fax] 072-892-3247
[Mail] kansai.syu1@nifty.com
[HP] <http://kansaisyu.o.oo7.jp/index.html>